

2018年度 第3四半期 連結業績
機関投資家・アナリスト向けカンファレンスコール Q&A (要旨)

日時：2019年2月13日 15:30-16:20

回答者：ソニーフィナンシャルホールディングス 常務取締役 清宮 裕晶

ソニー生命 執行役員 那須 英吾

ソニー損保 執行役員 長谷川 徹

ソニー銀行 執行役員 林 幸男

※内容については、理解し易いよう部分的な加筆・修正およびQA順序の並べ替えをしております。

<質疑応答>

Q1:【生命】料率改定した家族収入保険および新医療保険への加入に際し、既契約を解約される傾向はどのような状況か。また今後どのように推移していく見通しか。

A:2018年度の年換算の解約失効率は1Qで7.6%、2Qで6.7%、3Qで6.3%と改善してきている。今後も徐々に改善していくものと考えている。

Q2:【生命】米ドル建一時払終身保険について、「積立利率」や「予定利率」という表示が保険料に対する利率であると顧客を誤認させるリスクがあるとの問題意識から、実質利回りの開示が進められる方向と聞いている。この表示の変更が各社の販売に影響を与えるのではないかと考えているが、ソニー生命の販売には影響しないという理解でよいか。

A:当社では外貨建保険と変額保険について、パンフレットや募集資料へのリスク情報の記載や取扱者への教育に加え、契約時にフォローコールなども実施して、お客様が正しく理解されていることを確認する取組みを徹底しており、今回の方針は、販売に影響はないと考えている。

Q3:【生命】順ざや額は改善傾向にあるが、2018年度3Q(9M)は米ドル建商品の増加にともなって購入した米国債の利息の収入が寄与しているのか？

A:その通り。

Q4:【生命】外国公社債が5,000億円強であるが、これがほぼ負債に見合うもので、順ざや額の増加要因と考えてよいか。

A:外国公社債5,000億円強は負債との見合いで購入しているものであり、順ざや額の増加要因になっている。一部、前倒しで資産を購入しているため、資産が負債よりも多い状況になっている。

Q5:【生命】変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額とヘッジ損益との差額は、2018 年度1Q (3M) : +15 億円、2Q (3M) : △10 億円であったが、3Q (3M) の金額は？

A: 2018 年度 2Q から一部の特別勘定について、株価指数先物によるヘッジから、個別銘柄を参照したトータル・リターン・スワップによるヘッジへと変更しており、市況の変動が大きい中でも、ヘッジ損益とのずれは△15 億円であった。

Q6:【生命】その他有価証券(株式)の売却益の見通しについて、2018 年度から 3 年間かけて計上していく方針に変更はないか。

A: 変更ない。

Q7:【生命】連結経常利益の通期見通しが 900 億円に届くのは、2014 年度以来であり、ソニー生命によるところが大きいと考える。この中で変額保険に係るヘッジ損益はどのように影響しているか。ソニー生命の見通しを期初想定から 70 億円程度上方修正する要因を教えてください。

A: 変額保険に係るヘッジのずれは、2018 年度 3Q (9M) 実績が△10 億円で、前年および期初想定に対して、大きな変動は発生していない。

見通しを期初想定から上方修正する要因は、一般勘定におけるその他有価証券に係る減損損失(△40 億円)の計上があったものの、解約の増加にともない責任準備金負担が期初想定を下回る見込みであること(+60 億円程度)、および一般勘定におけるその他有価証券に係るヘッジを目的としたデリバティブ取引の損益が期初想定を上回ったこと(+20 億円程度)などによる。

Q8:【生命】新契約マージンが、前四半期から 0.4 ポイント改善している要因は？円金利低下の影響は大きくないのか？

A: 米ドル金利の上昇による効果が多くを占めている。新契約価値の計算は月次ベースで新契約価値を積み上げて計算している。米ドル金利は、2018 年度 2Q (3M) 平均に比べて、3Q (3M) 平均の方が高かったことが改善要因になった。

円金利の低下は、2Q (3M) 平均と 3Q (3M) 平均を見るとそれほど下がっておらず、影響は大きくない。

Q9:【生命】新契約マージンの 2018 年度 4Q (3M) の見通しは、足元の金利低下や、商品ポートフォリオの状況からどのように見ているか？

A: 足元の金利低下は、新契約マージンの低下要因になり得る。商品ポートフォリオの見通しについては、現時点では申し上げられない。

Q10:【損保】見通しの修正において、事業費や責任準備金の繰入額の増加を見込むとは具体的にどのような内容か。

A: 事業費については、3Q 累計で計画に対し未消化の分があり、これが 4Q(3M)に期ズレすることや、システム関連の費用の増加を見込んでいる。

責任準備金の繰入額は、一部商品の責任準備金について 2019 年 3 月末で積み増しを検討していることから、一定程度見通しに織り込んだもの。

Q11:【銀行】ソニー銀行の格付別有価証券について、「AAA」格の 3,000 億円の中に、CLO が 2,000 億円位入っていると思うが、外貨預金に対するものなのか。それとも別途、外貨調達をしているのか。

A: CLO の個別の金額、投資規模については、開示していない。基本的には、お客様からの預金を運用の原資としており、CLO 投資見合いで市場調達を行う運営とはしていない。

Q12:【SFH】配当方針について、今回は配当予想を据え置いたが、修正 ROE が年換算7%水準で進捗しているので、期末に配当を増額修正する可能性は残っているのか。

前年度は 3Q 決算速報のタイミングで配当予想を増額修正していたので、足元の市場環境等を踏まえると増額修正は行わない判断なのか。

また、単年度で修正 ROE が7%を超えれば中期的に、毎年 2.5 円ずつとしている増配ペースを引き上げて、来期以降の増配ペースも 2.5 円よりも高い水準に切り替わると期待してよいのか。それとも引き上げるのは単年度だけか。

A: 配当の考え方については、2018 年度2Q 決算発表の電話会議でお話した内容から変わらない。中期計画で 6-7%の連結修正 ROE を目指しており、7%を超えた場合には追加の増配も検討することになる。現時点では、今年度通期で 7%に届くかどうかは分からない。

今期だけではなくて、来期以降も7%を継続できる見込みであれば、毎年 2.5 円の増配という考え方を引き上げる可能性もあるが、それがあくまでも単年度だけの数字であれば、単年度を見直すかどうか検討する。7%を超えたら、直ちに増配すると決めているわけではない。

Q13:【SFH】ソニー(株)が自己株式の取得をした事が、SFH の株主還元方針にも影響するか。

A: 影響しない。また、SFH として自己株取得を行う予定はない。

以上